

響音

ひびき
Vol. 4

すべては子供たちの笑顔のために

令和5年9月8日

東信教育事務所

〒384-0006

小諸市与良町6-5-5

Tel.0267-31-0251



初任者研修 夏期研修の一コマ（総合教育センター）

Hibiki Vol.4 「Unlearn～学びなおし～」

- “授業から学ぶ”
 - ・ 「見方・考え方」を働かせる授業を構想する
 - ・ 学習カードをつくる時のポイントってなんだろう
- “研修会の窓”
 - ・ 語り合う × 自分を見つめなおす
～初任研 教師力向上研修Ⅱ・Ⅳ～
 - ・ これまでの初任者研修を振り返って
～初任研 研修コーディネーター等研修会～
- “考える部屋”
 - ・ 子供たちを見守る
～夏休み明けからの目配り・心配り～
- “生涯学習課より”
 - ・ 東信地区社会人権教育研修会

今ある「当たり前」を
ふりかえり
さらなる学びや成長に
つなげる



バックナンバーはこちらから



授業から学ぶ

(小3・理科)
「身近な自然の
観察」



「見方・考え方」を働かせる授業を構想する ～大切にしたい子供の学びの姿を再確認～

「見方・考え方」を働かせることは、資質・能力の育成に不可欠です。子供が、授業の中で「見方・考え方」を働かせながら追究する姿について、A先生の実践から考えてみましょう。

☆ 学校周辺に生息する動物を見つけた子供たちに対して…

【前時】見つけた動物の特徴が分かるようにスケッチした子供たち

カタツムリ カメムシ チョウ クモ
赤ダニ テントウムシ ダンゴムシ
アリ 見つけたよ!



A先生

動物の姿にちがいがあることを理解してほしいな。そのために、子供同士のやり取りの中で、色、形、大きさなど分類する視点を決めて、見つけた動物を分類する活動をしよう。



☆ 子供が「見方・考え方」を働かせる姿を具体的にイメージし…



A先生

子供たちは、共通点と差異点を基に「比較する」考え方を働かせながら、動物を分類できるかな。分類したあとに、「共通性・多様性」の見方を働かせて、動物の姿のちがいに気付けるかな。

理科の見方・考え方とは

- 理科の見方…自然の事物・現象をとらえる視点
「エネルギー」領域 …量的・関係的な視点
「粒子」領域 …質的・実体的な視点
「生命」領域 …共通性・多様性の視点
「地球」領域 …時間的・空間的な視点

その他…原因と結果、部分と全体、定性と定量

- 理科の考え方…どのような考え方で思考するか
第3学年… 比較する
第4学年… 関係付ける
第5学年… 条件を制御する
第6学年… 多面的に考える



☆ 「見方・考え方」を働かせる

場や発問を工夫しよう



A先生

どういうふうに分けられそう? (右図①②)

A先生の発問に対して、グループで考え始める子どもたち

ダンゴムシ。
足がめっちゃ多いじゃん。

足とか。何本とか。
それで分けるのどう?

足「多い」グループ

足「中」グループ

分類する基準を決め
机の上に分ける

足「無い」グループ

足が「多い」、「中」、
「無い」で分けよう。

4本～6本の足の動物は、
「中」にしよう

共通しているところもあるけど、それぞれ
少しずつちがうことがはっきりわかった。

↑「比較する」考え方を働かせて、分類しています。

↑「共通性・多様性」の見方で、とらえています。

A先生の発問によって、子供たちは動物を『足の数』という共通の視点で観察し、比較して分類することで、動物の姿に様々なちがいがあることに改めて気付きました。

子供たちが「見方・考え方」を働かせ、理解や思考が深まる場を設けることが必要です。そのため、教師は資質・能力の育成に至る学習過程で、「見方・考え方」を働かせている子供の学びの姿をイメージして、授業を構想（教師の発問、活動の場の設定の工夫 等）していきましょう。



授業から学ぶ

(小4・国語)
「読むこと」



学習カードをつくるときのポイントってなんだろう ～育成を目指す資質・能力を明確にして～

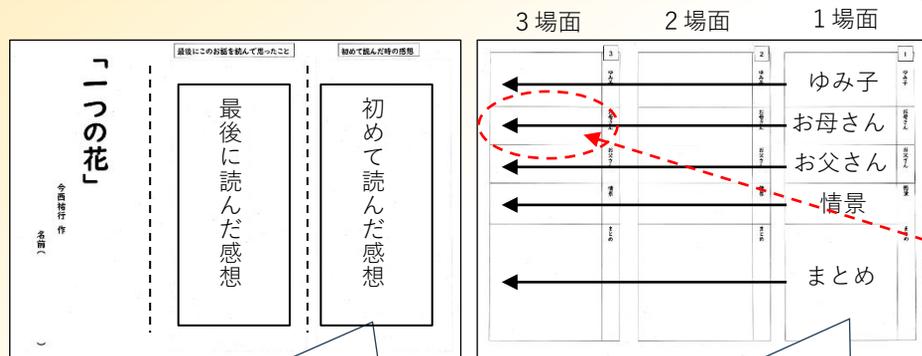
T先生の授業では、「3場面でお母さんの声がかかれていないのはなんでだろう」「『一つだけ』がなくなっている」と、子どもたちが場面の様子を比べながら、次々に気付いたことをつぶやく姿がありました。T先生はどのような工夫をしたのでしょうか。

単元名：場面の様子をくらべて読み、感想を書こう
～「一つの花」～

本単元で育成を目指す思考力、判断力、表現力等の指導事項は、「C読むこと」(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。」です。

Aさんの「3場面でお母さんの声がかかれていないのは何でだろう」というつぶやきは、1、2場面のお母さんの姿と比べた気付きです。これは、複数の叙述を結び付けて具体的に想像しながら読んでいる姿と考えられます。なぜこのような姿が生まれたのでしょうか。子どもたちの手元にある学習カードを見てみると、T先生の様々な工夫がありました。

A3両面印刷を3つ折りにした学習カード



3場面だけ、お母さんの声がかかれていないのはなんでだろう？
(Aさん)



【外側】初発の感想と最後の感想を書き込み、単元を通して自分の読みの変化を比較することができる。

【内側】3つの場面について、登場人物の言葉や行動などを書き込み、場面ごとの違いや変化を比較することができる。

授業の後、T先生に学習カードの工夫について聞いてみました。



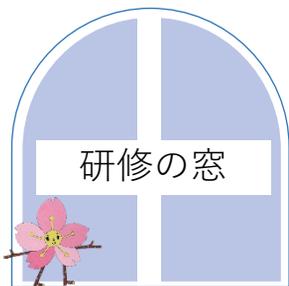
国語の授業は、何ができるようになったらいいのかわからなかったので、学習指導要領解説の目標や内容を読んで、国語の資質・能力を確認しました。解説には、「場面の移り変わり結び付けて具体的に想像するためには、(中略)物語全体に描かれた行動や会話に関わる複数の叙述を結び付けて読むことが重要」と示されていたので、先輩の先生から教えてもらった「場面ごとに折りたたんでいく学習カード」からヒントを得て、場面ごとに叙述を比べて考えられる学習カードを作ってみました。子供のつぶやきがたくさん出てきて面白いです。

T先生は、学習指導要領の解説を確認することで、授業の目標や学習カードの作り方が明確になったそうです。それぞれの登場人物ごとに行動や会話を比較するために、3場面全体が一目で見渡せる学習カードは効果的だと考えられます。Aさんが場面ごとにお母さんの行動描写を比較し、3場面の変化に気付いた姿は、こうして生まれていたのですね。

「国語の授業で、何ができるようになったらいいの？」
もし、子どもたちから質問されたら、どのように答えますか？

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」→





語り合う × 自分を見つめ直す ～教師力向上研修Ⅱ・Ⅳ 自己課題を窓口～

日々、子供たちの笑顔のために実践されている先生方にとって、授業づくりや学級づくりにおける自己課題は何か。初任者と5年経験者がクロスエイジで、自己課題に関わる実践を持ち寄り、語り合いました。

【初任者の感想から】

5年目の先生方は、ICTを積極的に活用したり、主体性を育むために活動を工夫したりと、5年たった今もそれぞれの自己課題に向けて、明確な目的をもっていると感じました。子供たちのために授業をよくしていこうと考えていて、常に学び続け、自分自身を更新している姿勢が素敵だと感じました。

子供たちと向き合う仕事だからこそ、常に自己課題は見えてくるものです。初任者もこれから年数を重ねていくと、経験に基づいた自分の考えができてきます。それを基に止まることなく、新たな視点や改善の余地を柔軟に取り入れ、目の前の子供たちの姿に寄り添いながら自分の考えを更新し続けられる教師でありたいですね。



5年経験者のICTを活用した実践の発表

【5年経験者の感想から】

初任の先生方は、自分の授業をさらによくしていこうという向上心がすごいなと思いました。自分が「仕方ないことだから」とあきらめていたことや「これくらいは」と妥協していたことを、先生方は自己課題として据えて誠実に向き合っていました。自分も初心に戻って、子供たちとよりよい授業をつくりたいと改めて思いました。

5年という経験は尊いもの。しかし、それが当たり前になってしまうと大切なものが「見えなく」なってしまふことがあります。だからこそ、初任者を始め様々な経験値の先生方と実践を語り合い、互いのよさから学ぶことを大切にしましょう。そうすることが、自分を見つめ直すきっかけとなります。初心に戻ることで「見えてくる」こともありそうですね。



初任者の板書の写真を基にした実践発表

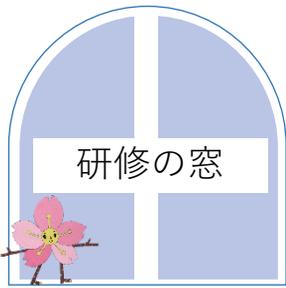
「初任の先生方のやる気や熱意がとても伝わってきて、自分もがんばらなければと奮起させられました」

研修を終えて...

「先輩の姿から、学び続けることで教師はいくつになっても力をつけられる素敵なお仕事だと、改めて感じました」

クロスエイジで語り合う場は、今回の研修だけではありません。学校には様々な経験をもった先生方が、それぞれの自己課題に向けて日々実践を積み重ねています。校内においても日常的に語り合うことを大切に、互いのよさから学び合うことを通して、自分を見つめなおせるといいですね。





これまでの初任者研修を振り返って ～初任研 研修コーディネーター等研修会(7月)より～

初任研（メンター方式）研修コーディネーターの先生方は、限られた時間の中でどのようなことを意識して、初任者と関わっているのでしょうか。初任者の成長していく姿をもとに語り合いました。



初任者研修や初任者との関わりで、意識していることを教えてください

学校の中の1人の先生として位置づくように「つなぐ」を意識しています。初任者を全職員で支える環境を整えることを意識しています。

初任者の取組を認めることで自信をもって、一年間の研修をやり通してほしいと願っています。

初任者は、うまくいかなかったところも自分でちゃんと分かっている、それ含めて認めるようにしています。

たくさんの先生から学んでほしいので、複数の職員の様々な視点から意見を交わして学ぶことができることもOJT研修のよさを感じています。新しく気付いたや学んだこと振り返るようにしています。

講師の経験があっても、分からないことはたくさんあります。「困っているのはどこなのか」を聞き、その困り感にサポートするようにしています。

毎日関われないので、初任者の「困り感」を相談する時間を位置付けてもらっています。

※OJT研修（On the Job Training）授業づくり等の悩みや課題について、初任者が初任研メンターチームや校内の研究部会、教科会、係会等の場で相談しながら、指導や助言を受ける研修。

授業の基本的な型が分かるようにしています。何か例を示すと、すぐに見える場合もあれば、苦しんでいるけれど、だんだんとよくなっていく場合もありますが、確実に力をつけていると思います。

研修コーディネーターの先生方は、週に限られた日数しか初任者と関わりません。その関わりも基本的には今年1年間です。だからこそ、今年1年を無事に過ごすだけでなく、来年度以降にもつながる力を初任者に身に付けてほしいと願い、そのためのためにどうすればよいか、いろいろなことを考え実践されています。



初任者の様子や成長した姿を教えてください

悩み、苦労しながらも、子供たちと一緒に奮闘し、少しずつ手ごたえを感じている姿が素晴らしいです。

3人の初任者と関わっていますが、それぞれが向上心を持っていて素晴らしいです。

自身の至らない点を謙虚に反省し、次に生かそうという姿勢が見られ、これからがとても楽しみです。

はじめは教師主体の授業だったが、このところ子供主体の授業になってきました。

3ヵ月がたち、大きな行事なども乗り越えたことで、自信がついてきているようです。

初任者の成長した姿を語る様子からは、1年後の初任者の姿を想い描き、「今を共に歩んでいく」という熱が伝わってきました。「学校全体で初任者を育てる」ことがメンター方式の“よさ”です。今回の研修会を通して、参加された先生方が、ご自身の取組やキャリアを見直すとともに、各校の教師力向上について考えを深める機会となりました。



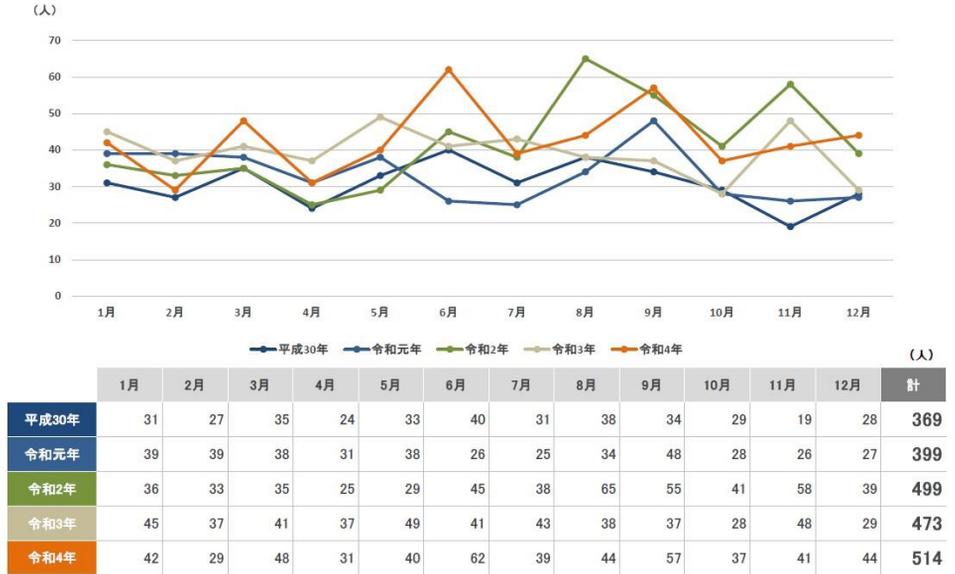


考える部屋

連日の猛暑の中、それぞれに夏休みを過ごした子供たちが学校へ戻ってきて、元気な声を響かせていることと思います。一方で、長期休業明けは、子供たちがつらい気持ちや苦しさを感しやすい時期でもあり、よりアンテナを高くした見守りが必要です。

子供たちを見守る ～夏休み明けからの目配り・心配り～

児童生徒の月別自殺者数の推移（全国）



（出典）「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」（確定値）及び「自殺の統計：各年の状況」（確定値）を基に作成。

危険の高い子どものサイン

- ・関心のあったことに興味を失う
- ・集中力がなくなる
- ・不安が増し、落ち着かない
- ・投げやりな態度が目立つ
- ・身だしなみを気にしなくなる
- ・自己管理がおろそかになる
- ・身体の不調が長引く（不眠、食欲不振、腹痛など）
- ・自殺を口にする

「死にたい」と訴えられたり、自分の身体を傷つけていたりすることがわかったら、それを決して軽視しないことが重要です。

小さな違和感から子供の危機を察知したということは、周りの大人のアンテナが敏感であると同時に、それは子供の中に、「あの先生なら助けてくれる」という思いがあるからこそだと考えることができます。

ひょっとして?と思ったら

【TALKの原則】

- Tell 言葉に出して心配していることを伝える
- ASK 「死にたい」という気持ちについて、素直に尋ねる
- Listen 絶望的な気持ちを傾聴する
- Keep safe 安全を確保する⇒その後をしっかりとつなぐ

「秘密にしてほしい」と言われることがあるかもしれませんが。しかし、そのことを知った先生だけで見守るのは万が一の場合に責任を問われることにもなりかねません。学校では、集団守秘義務の原則に立ち、いかに校内で連携できるかが大きな鍵となります。子供が恐れているのは、知られることではなく、知った際の周りの反応だと言われます。子供は大人の過剰な反応にも、無視するような態度にも、どちらにも深く傷つきます。保護者に対しても、それは同じです。

「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」文科省より

ストレスをためこむ子供が増えていると言われます。安曇野内科ストレスケアクリニックの飯田俊穂先生は、日本で今「孤立化」が進み、精神的な幸福度が世界でも最低のレベルであることを憂い、人と人との交流の場の必要性を指摘しています。

学校という場が、子供たちにとって幸せを感じられる場になることを願い、2学期も大切な子どもたちの命を見守っていきましょう。



研修会の ススム

東信地区社会人権教育研修会 ～6月27日（火）佐久平交流センター～

各地域で中心となり人権教育を推進している皆様、幼保小中高の先生方など、160名近くの皆様が参加し、研鑽を深めました。今回は参加された方の声の一部をお届けします。



全体講演

「子どもが子どもであるために」 ～居場所づくりの実践から～

認定NPO法人フリースペースたまりば理事長
西野博之さん

- ・とても良い講演でした。『子どもは生まれながらに人間である』『大人がまず幸せにならなければ、子どもは幸せになれない』『大丈夫だよの声がけ』『弱音をはける環境の大事さ』大変参考になりました。
- ・西野さんの話に釘付けになりました。教員として、親として、その振る舞いを見直したいと思いました。『生きているだけでいいんだよ』をもう一度、胸に刻んで今日は帰りたいと思います。

分科会

第1分科会（同和問題）

長野県同和教育推進協議会 事務局長
清水稔さん



「あけぼの」が改めて考えて作られていること、また授業の中でしっかりと扱わなければいけないことを感じました。「寝た子は正しく起こす」という言葉、心に留めておきたいと思います。

第2分科会（障がい者）

日本障害者スキー連盟 パラノルディック委員長
渡辺孝次さん



日本の人権についての物差しが世界と違うということに驚きました。個人がどう意識を変えていくかで全体が変わっていくことを教えていただきました。前向きなお話で、力が湧きました。

第3分科会（ハンセン病問題）

国立重監房資料館 部長
黒尾和久さん



感染症について改めて学ぶことができました。人の憂いに寄り添うことで優しいになるという考えを大切にしていきたいです。

第4分科会（参加体験型学習）

北信教育事務所 指導主事
宮坂宏さん



参加体験を通して人権を感じることで、より人権が身近に感じられるよい機会だと思いました。実践してみたいと思います。

今年度は4年ぶりの参集開催となりました。講師の言葉から、多くのことを学べたとともに、改めて学び続けることの大切さを教えていただきました。

